

状態ごとの施設入居事例

状態にあった施設

各施設の  
特徴

入居検討時のポイント

入居の  
相談先

有料老人ホームとサ高住

事例紹介

## 1. 状態ごとの施設入居例

高齢者に限らず、他の人の力を借りて生活をしなければならない人や、元気なうちに新しい生活環境を求めて施設に入るなど、様々な事情のもと、自宅での生活から「施設」に切り替える人は多く見受けられます。

この頁では、状態ごとの施設入居例を提示いたします。

(下記の事象でも、介護保険や社会資源を活用し、自宅で生活することを選択する人もいます)

	事 象	補足説明
1.	病院退院後の生活が困難	
1-1	・入院療養が長くなり、退院後の歩行等に支障を感じる人	<p>病院での入院の目的は、病気を治すことに集中しており、現在の医療制度では病気によっては入院期間に限度があります。また骨折や梗塞等で麻痺状態になった場合は、リハビリで、元の状態に回復できるようにしていますが、これも限度があります。</p> <p>自分で生活できるまでに、それなりの次の暮らしができる入居施設を探すことが必要です。</p> <p>病院には、このような人の相談窓口として医療相談室等があります。</p>
1-2	・退院後は一人住まいとなり、食事をつくれる状況でない人	
1-3	・退院後も引き続き、医療面では継続的な観察・治療が必要である方または不安のある人	
1-4	・認知症があり、一人での生活を送ることは難しい人	
2.	一人生活が難しくなった人	
2-1	食事の世話や、排泄等日常的な生活を送るのに介助が必要な人	<p>夫婦の片方が亡くなり、日常的な世話をしてくれる人がいない場合や、医療的な支援が必要な人は、在宅でのケアを受けることもできます。しかし、寂しさや夜間の不安のある方は施設入居の選択もあります。</p> <p>また、年金の範囲で生活できる施設もあります。</p>
2-2	慢性的な病気があり、何かあったときに頼る人が必要な人	
2-3	預貯金が少なくなり、日常的な生活が送らづらい人	
3.	家族で面倒がみられなくなった場合	
3-1	認知症のため、暴言や徘徊等が多く、家族の負担が極端に増えてしまうとき	<p>親が認知症となり、行動がエスカレートする場合があります。このような場合、親子間の葛藤で関係性は崩れてしまい、親に暴力をふるうこともあります。</p>
3-2	息子夫婦とも日中仕事にでかけており、日中一人暮らしの親が心配である。	
4.	元気なうちに住まいを替えたい	
4-1	家が旧いため、バリアフリーでなく、しかも庭木などあり自分では手入れできない	<p>老い支度のひとつとして、元気なうちに住まいを替えることもあります。</p>
4-2	ひとり暮らしは寂しい	